

教科目標

具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。

基礎的・基本的な知識及び技能の習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育む

言語活動の充実

身近な人々、社会及び自然とのかかわりや自分自身について考えたり、気付きの質を高めたりするため、活動や体験したことを振り返ったり、他者と交流したりするなどの学習活動を充実する。

自分の成長を振り返り、自らの成長に気付く事例

- 1 学年 第1学年
- 2 単元名 あしたへジャンプ！もうすぐ2年生
- 3 単元の目標

小学校に入学してからの1年間を振り返り、自分ができるようになったことや自分の成長を支える人がいたことに気づき、2年生に向けてより良い自分へ成長していこうとする気持ちを持つことができる。

4 言語活動の充実の視点

視点1： 自分が入学してからの1年間ですることができるようになったことや成長したことなどを絵や文に表し、その過程で友達と情報交換したりエピソードを話し合ったりする中で、自分の成長を実感し、これからの成長へ期待を持って意欲的に生活するようにする。

視点2： 自分を応援してくれたり、励ましてくれた人に対して感謝の気持ちを伝えるために手紙を書いたりお礼を言ったりすることを通して、感謝の気持ちを表現するようにする。

5 主な学習活動

○単元の展開（全18時間）

段階	学習活動
第一次 (3)	・入学したときから今までの学校生活について写真や作品を基に振り返り、自分の成長について考える。
第二次 (10)	・自分が成長した事柄について、教師や友達に伝えたい内容を考え、それを絵や文に表して冊子を作る。 <div style="text-align: right;">視点1</div>
第三次 (5)	・「ありがとう」の会を計画し、準備する。 ・お世話になった人を招待して『ありがとう』の会を行う。 <div style="text-align: right;">視点2</div>

言語活動と体験活動

- 言語活動を重視することで、体験を軽視しないようにしましょう。体験することで言葉も豊かになり、語いも増えてきます。体験活動が充実していくことが、言語活動の充実につながります。

「言語」の捉え

- 言語活動の充実を考える場合、「言語」を「表現」と捉えましょう。言語活動だからといって、文字言語や音声言語にとらわれるのではなく、絵、動作、劇化など子供たちの表現方法の多様性を考慮するようにしましょう。

評価の観点

- 生活科の評価の観点は、従前どおり三つの観点が設定されています。「活動や体験についての思考・表現」については、出来映えとしての表現ではなく思考の表れとしての表現と考えます。「思考」は内的な発想なので見えにくいいため、つぶやきや発言、行動、あるいは主体的に表現した絵や文などの「表現」で見取ります。「表現」だけを取り出して、その出来映えを評価しないように留意しましょう。